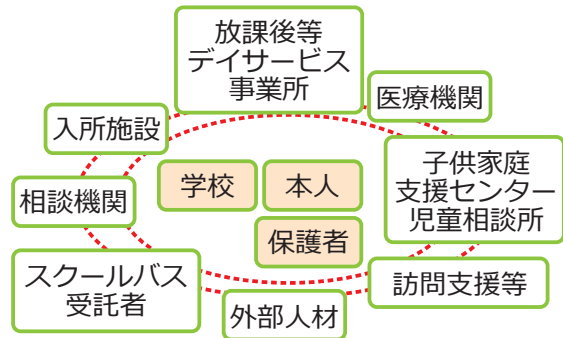


6 保護者、外部機関との連携

これまでの項目で、学校における適切な指導や対応について言及してきましたが、強度行動障害のある児童・生徒の生活には、学校だけでなく、様々な関係機関や関係者が関わっています。

強度行動障害のある児童・生徒の対応に当たっては、関係機関や関係者が、知的障害、自閉症等の発達障害の特性に応じて、共通の理解に基づき一貫した対応を連携して行うこと、また障害特性のアセスメントや環境の調整に取り組むなどの行動上の課題を誘発させない指導や配慮を提供していくことが必要です。



(1) 保護者との対応方針の共有

強度行動障害のある児童・生徒の学校での様子及び家庭での様子を、日頃から保護者と細やかにやりとりし、共有と共通理解を図ることが重要です。

情報共有を行う内容としては、「体調」「生活リズム（睡眠や食事、排せつなど）の変化」「日課などの環境の変化」「強度行動障害などの課題となる行動の有無」などが挙げられます。

また、指導方針を共有し、保護者の理解を得ておくことが大切です。特に偏食が見られる児童・生徒については、苦手な食べ物を無理やり食べさせないようにすることが重要です。情報共有の手段は、電話、連絡帳、面談などがあり、必要に応じて使い分けます。

また、保護者との信頼関係を基にした連携のためには、保護者への支援という視点も必要です。

強度行動障害への対応は、家庭においても大きな負担となっており、保護者にとって、児童・生徒の養育に関する不安や悩みは非常に深刻です。

そのことを理解しつつ、保護者の心情に寄り添い、学校での取組を家庭で生かすためのアドバイスや家庭でできる環境の整理（構造化）の紹介をすることなどが考えられます。

また、学校で対処できない課題が生じた場合は、必要に応じて、医療や福祉等の関係機関につなぐことも有効です。



(2) 外部機関との連携

児童・生徒の生活に外部機関が関与している場合は、個別指導計画や学校生活支援シート（個別の教育支援計画）に記載の上、保護者だけでなく外部機関との連携が重要となります。

保護者との情報共有と同様、個々の外部機関とこまめにやり取りする方法もありますが、複数の関係機関が関与する支援会議を活用して情報交換を行うことが有効であり、地域内でのネットワークづくりにもつながります。

ア スクールバス受託者

車内や乗降時の事故防止の観点からも、日頃から運転手や添乗員と情報共有や児童・生徒への接し方についての理解促進を図り、一貫した児童・生徒への対応ができるようにしておくことが重要です。

イ 放課後等デイサービス事業所

学校からの送迎時の引き渡しの際に、ノート等を活用して当日の状況を共有する方法の他、指導方針についてのケース会議の実施などが考えられます。

ウ 障害児入所施設

児童・生徒が障害児入所施設に入所している場合は、施設担当者との連携が必要です。情報共有の手段は、電話、連絡帳、面談、定期的な指導方針についてのケース会議などがありますが、同じ生活の場でも家族ではない支援員が支援として生活を支える集団生活の場であり、自宅での様子と異なる場合があることに注意が必要です。

障害児入所施設では、強度行動障害に限らず児童・生徒の行動の背景や心情を探りながら、生活環境を整え、支援者との間の信頼関係の構築に努め、行動の安定化を目指しています。そうした基盤作りは生活支援と教育に共通したもので、お互いに支援のノウハウを共有し合うことは非常に有効です。

教員が施設を訪問したり、教員と施設職員の交流や研修の機会をもったりするなど、相互理解やノウハウの共有を深めていくことも有効です。

エ 医療機関

定期的に医療機関に通院している児童・生徒の場合は、保護者の了解を得た上で、学校生活での様子や気になる点、日頃の指導状況等をまとめた活動レポートなどを持参し、医師等の専門家に相談する対応が考えられます。

オ 相談機関

児童・生徒への指導内容の検討に当たっては、必要に応じて、東京都発達障害者支援センター（こども TOSCA）などの相談機関を活用し、アドバイスを受けるなど、第三者の知見も得た上で指導を行っていくことも有効です。

(主な相談先)

- 東京都発達障害者支援センター（こども TOSCA）
所在地：東京都世田谷区船橋 1-30-9
電話：03-6413-0231
HP：<http://www.tosca-net.com/>
- 独立行政法人 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園
所在地：群馬県高崎市寺尾町 2120 番地 2
電話：027-320-1366
HP：<http://www.nozomi.go.jp>
- 相談支援事業所
とうきょう福祉ナビゲーション
HP：<https://www.fukunavi.or.jp/fukunavi/>

事例⑪ 保護者、外部機関との連携

基本情報	Hさん、高等部、愛の手帳2度、自閉症	
コミュニケーション手段	発語なし 指差し、クレーン現象、写真カード、タブレット端末、身振りやハンドサインが一部可能	
問題となる行動の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自傷 <input checked="" type="checkbox"/> 他害 <input checked="" type="checkbox"/> 激しいこだわり <input checked="" type="checkbox"/> 器物破損 <input type="checkbox"/> 偏食 <input checked="" type="checkbox"/> 排せつ関連 <input type="checkbox"/> 多動 <input checked="" type="checkbox"/> 大声を出す	
問題となる行動の詳細	<ul style="list-style-type: none"> ・場所・時間等を問わずに嘔吐する（栄養失調で体力低下）。 ・指の爪やささくれを血が出るまで剥く。血を衣服や教員や壁に塗る。 ・ろう便・大便是常に床上にする。 ・人をつねる。 ・椅子を倒す。投げる。 	
考えられる原因	<input checked="" type="checkbox"/> 要求 <input checked="" type="checkbox"/> 注目 <input type="checkbox"/> 逃避 <input checked="" type="checkbox"/> 感覚 （見通しがもちにくい。自分の思いが通らない。体調不良など） ・自分の気持ちを表現する手段、イライラした気持ちを表出する手段となっている。	
指導方針	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション欲求を満たす。 ・施設や保護者、関係機関と連携し、個別指導計画に記載の上、指導方針を共有する。 	
指導・支援内容とその結果	指導・支援内容	結果
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外部専門員の活用・連携 <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に関係する大学教員である外部専門員の助言を受け、教室内にカームダウンエリアや専用スケジュールボードを設置した。 ○ 医療機関との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・主治医の指示により、体重減少予防のため、学校で1日2度の1口量の補食を開始した。 ○ 出身校との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活支援シートを活用しながら、嘔吐に関することなどの情報交換を行った。 ・給食後の嘔吐を予防するための様々な対策（散歩、楽器、運動など）を実施した。 ○ その他 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や施設との日常的な情報共有を行った。 ・コミュニケーションの欲求を、タブレット端末を使用したやり取りを通して満たす。 ・身振り、ハンドサインや絵カードでのやり取りを行った。 ・服破りや指むしりの代替として、テープを使った感覚遊びや感覚おもちゃを活用した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不安定時に早く落ち着くことができるようになった。 ・現在、補食については嘔吐していない。 ・小・中学部からの継続した指導の充実につながっている。 ・改善せず。引き続き、様々な指導を検討中。 ・登校時不安定でも、このやりとりにより落ち着くことが多くなった。 ・直接目を合わせてやりとりができるようになった。 ・意識を切り替えることができるようになった。